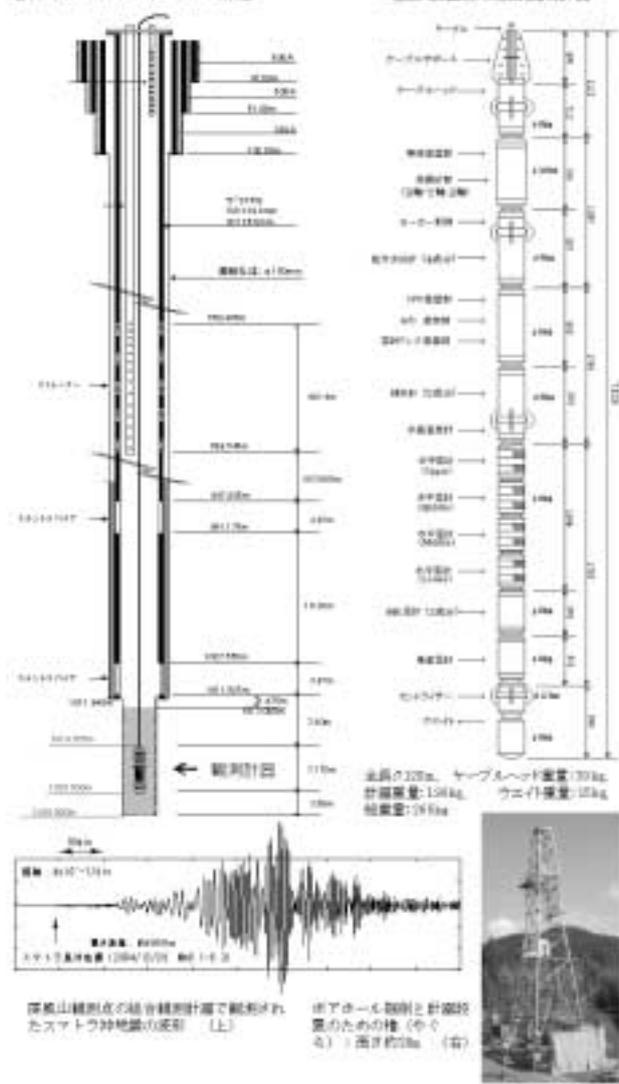


定林寺1030mポアホール構造



この計器は一台で十八成分もの異なる観測が出来るのです。深度1030mのところ、設置し観測します。図の右下にポアホールの掘削と計器設置のための槽（やぐら）の写真を載せてあります。地殻活動の総合観測では世界最深で最新のポアホール観測です。現在、このような観測が出来るのは日本だけです。気象庁、産業技術総合研究所や大学などでも採用され、東海地震、東南海地震や南海地震その他の研究のために有効な記録を蓄積しています。図の下には屏風山ポアホール観測点（深度1020m）の歪計で記録した、二〇〇四年十二月二十

六日スマトラ島沖地震の記録の一例です。震央距離が約6500kmと遠いにもかかわらず、大きな振幅の地震波が観測できています。如何に観測計器の感度がよいかかわかると思います。地震波形を解析することによって断層の運動や地殻構造に関する情報を得ることが出来ます。

地震予知研究と今後：地震

を予知するためには地震の大きさ、場所、時期を知る必要があります。現在、大きさと場所は大体見当をつけることが出来ますが、時期を正確に知ることが最も困難なことです。日本のように社会システムが高度に進み、組織化され

ているところでは、予知の失敗による社会的影響や経済的損失が大きく、高い精度が要求されるわけです。今後、地下深部での感度の良い観測によって、プレート運動を明らかにすることにより、巨大地震の発生過程が解明されていくと考えています。文部科学省の科学技術政策研究所が多くの学者の考えを調査し、二〇〇五年に公表した報告書「我が国における科学技術の状況と今後の発展の方向性」には、重要な科学技術に関する予測年表が記載されています。地震火山に関連した予測がいくつかある中で「プレート境界地震と内陸地震各々に

ついてM7以上の地震発生のお迫度（場所と時期）を人的災害軽減につながるよう高精度で予測する技術」に関する社会的適用の予測時期は、二〇三〇年と記載されています。私も同様の考えです。天体の運行を正確に計算できるような地震予知は困難ですが、災害軽減に役立つ実用的な地震予知は夢ではありません。地震予知研究を進めるとともに、災害に強い日本にするにはどうすればよいか研究することは、日本で最も国際貢献の出来ることでもあります。

明治九年創業 老舗の味料亭

志田屋

志田豊忠 (S36)

秋田市大町3丁目5-11
TEL 018-832-0432

市立秋田総合病院

院長 佐々木 秀平 (昭和36年卒)

秋田市川元松丘町4番30号
TEL 018-823-4171
FAX 018-866-0797

医療法人 祐愛会
加藤病院

院長 加藤征夫 (昭和36年卒)
副院長 加藤倫紀 (平成元年卒)

秋田県秋田市河辺戸島字上野4番地3

人類は森から生まれた
「街に森を、緑を」
植樹ボランティア

グループ「森」

会長・川上茂樹(昭和45年卒)
石澤千秋(昭和46年卒)
田澤慎一(昭和46年卒)
林 康夫(昭和47年卒)
藤原彰人(昭和47年卒)
《事務局》018-828-3033